

論文の和文要旨

論文題目	キルギス語の〈持続〉を表わす補助動詞 -jat-、tur-、otur-、jür-を中心に-
氏名	アクマタリエワ ジャクシルク

本論文は、キルギス語の〈持続〉を表わす補助動詞 *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*のアスペクトな意味を明らかにすることである。

本研究では、キルギス語の補助動詞 *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*が-a/-y、-(i)p といった副動詞接尾辞に後接して現れる場合のみ研究対象とした。なお、これらの補助動詞は、本動詞としても使われ、それぞれ、「横たわる」「立つ」「座る」「動く」という意味を表わすが、本動詞としての意味用法を考察対象から外した。

これらの4つの補助動詞を研究対象とした主な理由は、共通する文法的な意味をもつからである。たとえば、次のような例である。

- (1) *Mišik öl-üp jat-a-t.*
猫 死ぬ-CVB *jat-PRES-3* 「猫が死んでいる。」
- (2) *Al meni küt-üp tur-a-t.*
彼 私:ACC 待つ-CVB *tur-PRES-3* 「彼は私を待っている。」
- (3) *Al kitep oku-p otur-a-t.*
私 本 読む-CVB *otur-PRES-3* 「彼は本を読んでいる。」
- (4) *Al Tokyo-do oku-p jür-ö-t.*
私 東京-LOC 読む-CVB *jür -PRES-1SG* 「彼は東京で勉強している。」

これらの文では、補助動詞 *jat-*、*tur-*、*otur-*、*jür-*が用いられて、いずれも時間的過程の中において持続していることを表わす。日本語に訳すと、いずれも「シテイル」になる。しかし、これらの文では、各補助動詞によって文法的な意味に共通点や相違点がみられる。また、文によって、4つの補助動詞がいずれも使えたり、そうでなかったりする。これらは、主動詞の意味的なタイプや補助動詞に前接する副動詞接尾辞等に密接にかかわっている。

従来の先行研究において、キルギス語をはじめ、他のチュルク諸語の言語でも、この4つの補助動詞がアスペクト的な意味を表わすものとしてしばしば取り上げられてきた。しかし、多くは内省や直感によるものであり、具体的な実例に基づいて記述された研究はない。本研究は、これまで先行研究で述べられてきたことを、現代キルギス語の言語作品から抽出した大量の実例（約4000例）で検証したものである。

本研究では、これらの補助動詞のアスペクト的な意味を明らかにするため、主に主動詞の意味的なタイプ（動詞の語彙的な意味）と語彙的・文法的な要素に注目して、考察を行った。「主動詞の意味的なタイプ」とは、あるグループの語に共通の語彙的な意味のことである。この「主動詞の意味的なタイプ」は、各補助動詞形式との関係の中でのみ明らかになってくるものである。

以下、本論である第Ⅱ部（各補助動詞形式の考察）を中心に、本論で明らかになった点について述べる。

① V-(i)p AUXV 形式の場合

・ V-ip jat-形式の場合

「動作動詞」の場合、《主体の活動動作を表わす動詞-ある時点における〈動作の持続〉》、《主体の長期的な活動動作を表わす動詞-長期にわたる〈動作の持続〉》、《自然現象の動きを表わす動詞-現在における自然現象の〈うごきの持続〉》、《主体の生理的な動きを表わす動詞-ある時点における〈うごきの持続〉》、《主体の再帰的な動作を表わす動詞-ある時点における〈動作の持続〉》、《主体の移動動作を表わす動詞-①〈動作の開始〉、②〈動作のくりかえし〉、③〈動作のくりかえし〉》のタイプが現れた。これらの場合、jat-は、基本的に主体の〈動作の持続〉というアスペクト的な意味を表わすが、文中での言語的な条件によって、〈動作のくりかえし〉や〈変化の結果の状態〉などの意味へ移行することを確認した。

「変化動詞」の場合、《主体の無意志的な状態変化を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《人の社会的な変化を表わす動詞-〈動作のくりかえし〉、〈変化の結果の状態〉》、《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》のタイプが現れた。ただし、「動作動詞」の場合と異なって、「変化動詞」の場合、jat-は本来の語彙的な意味の「横たわる」が影響している用例もみられた。特に、動詞 öl-「死ぬ」、ukta-「眠る」の場合、jat-の語彙的な意味が残っている。

「状態動詞」の場合、《主体の空間的な関係を表わす動詞》のタイプがみられた。このような場合、jat-は、基本的に〈変化を起こさず、前から同じ状態の中にあること〉の意味を表わすと位置付けた。

「内的感情動詞」の場合、《主体の思考活動動作を表わす動詞-ある時点における〈思考動作の持続〉》、《主体の感情を表わす動詞-ある時点における〈心理状態〉》、《主体の評価的な態度を表わす動詞-ある時点における〈心理状態〉》のタイプが現れた。これらの場合、基本的に人主語に限る。

・ V-(i)p tur-形式の場合

「動作動詞」の場合、《主体の活動動作を表わす動詞-ある一定の時間における〈動作の持続〉》、《主体の長期的な活動動作を表わす動詞-長期にわたる〈動作の持続〉》、《主体の視覚・聴覚活動を表わす動詞-ある一定の時間における〈動作の持続〉》、《自然現象の動きを表わす動詞-自然現象の〈うごきの持続〉》、《主体の生理的な動きを表わす動詞-ある時点における〈うごきの持続〉》、《主体の移動動作を表わす動詞-①ある一定の時間における〈動作の持続〉、②〈動作のくりかえし〉》のタイプが現れた。これらの場合、基本的に〈動作の持続〉というアスペクト的な意味を表わすが、文中での構文的・文法的な条件により、主体の〈動作のくりかえし〉や〈変化の結果の状態〉の意味を表わすことを確認した。

「変化動詞」の場合、《主体の無意志的な状態変化を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の表示を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の動作が客体の変化を引き起こす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の再帰的な動作を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》のタイプが現れた。V-(i)p tur-形式の場合に他の補助動詞に現れない《主体の表示を表わす動詞》、《主体の動作が客体の変化を引き起こす動詞》のタイプが現れたのが特徴的である。V-(i)p tur-形式に現れる「変化動詞」の場合、tur-は、基本的に主体の〈変化の結果の状態〉というアスペクト的な意味を表わすが、主動詞の意味的なタイプや文中での言語的な条件によって、〈動作のくりかえし〉や〈動作の準備〉を表わす。

「状態動詞」の場合、《主体の空間的な関係を表わす動詞-〈変化を起こさず、前から同じ状態の中にあること〉》、《主体の擬態的な動作を表わす動詞-〈恒常的な状態〉》のタイプが現れた。

「内的感情動詞」を《主体の思考活動動作を表わす動詞-ある一定の時間における〈思考動作の持続〉》、《主体の感情を表わす動詞-〈心理状態〉》、《主体の評価的な態度を表わす動詞-〈心理状態〉》のタイプがみられた。

・ V-(i)p otur-形式の場合

「動作動詞」の場合、《主体の活動動作を表わす動詞-ある時点における〈動作の持続〉》、《自然現象の動きを表わす動詞-現在における自然現象の〈うごきの持続〉》、《主体の生理的な動きを表わす動詞-ある時点における〈うごきの持続〉》、《主体の再帰的な動作を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉、〈動作のくりかえし〉》、《主体の移動動作を表わす動詞-①〈動作の持続〉、②〈変化の結果の状態〉》のタイプが現れた。これらの場合、基本的に〈動作の持続〉というアスペクト的な意味を表わすが、文中での構文的・文法的な条件により、主体の〈動作のくりかえし〉や〈変化の結果の状態〉の意味を表わす。

「変化動詞」の場合、《主体の無意志的な状態変化を表わす動詞-〈発生〉》、《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》のタイプが現れた。《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》の場合、基本的に物・事主語に限る。

「状態動詞」の場合、《主体の擬態的な様態を表わす動詞-〈恒常的な状態〉》、《主体の付帯的な動作を表わす動詞-〈付帯的な状態〉》のタイプが現れた。jat-と tur-の場合にみられた《主体の空間的な関係を表わす動詞》のタイプが V-(i)p otur-形式の場合、出てこなかった。

「内的感情動詞」の場合、《主体の思考活動動作を表わす動詞-〈思考動作の持続〉》と《主体の感情を表わす動詞-〈心理的な状態〉》のタイプが現れた。他の補助動詞形式の場合にみられる《主体の評価的な態度を表わす動詞》のタイプは、V-(i)p otur-形式の場合、みられなかった。

・ V-(i)p jür-形式の場合

「動作動詞」の場合、《主体の活動動作を表わす動詞-現在における〈動作の持続〉、長期にわたる〈動作の持続〉》、《主体の長期的な活動動作を表わす動詞-長期にわたる〈動作の持続〉》、《主体の移動動作を表わす動詞-①〈動作の持続〉、②〈動作のくりかえし〉》のタイプが現れた。他の補助動詞形式にみられた《自然現象の動きを表わす動詞》、《主体の生理的な動きを表わす動詞》は、V-(i)p jür-形式に現れなかった。

「変化動詞」の場合、《主体の無意志的な状態変化を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》、《主体の動作が客体の変化を引き起こす動詞-〈変化の結果の状態〉》、《主体の再帰的な動作を表わす動詞-〈変化の結果の状態〉》のタイプが現れた。《主体の漸進的な変化を表わす動詞-〈変化の進展〉》の場合、[V-(i)p jür-üp otur-]の形で現れ、日本語に「V-つづける」、「V-ていく」と訳されるのが特徴的である。

「状態動詞」の場合、《主体の状態的な性質を表わす動詞》のタイプが現れた。この類の動詞の場合、主体の〈状態的な性質〉を表わす。

「内的感情動詞」を《主体の思考活動動作を表わす動詞-長期にわたる〈思考動作の持続〉》、《主体の感情を表わす動詞-長期にわたる〈心理状態〉》、《主体の評価的な態度を表わす動詞-長期にわたる〈心理状態〉》のタイプが現れた。

以上、V-(i)p AUXV 形式の場合に現れる主動詞の意味的なタイプと各補助動詞形式におけるアスペクト的な意味について簡単にまとめた。

② V-a/-y AUXV 形式の場合

今回の言語資料からこの形式の場合、用例数は圧倒的に少なかったにも関わらず、各補助動詞形式に特有の特徴がみられた。なお、今回のデータからは、V-a/-y otur-形式の用例は得られなかった。V-a/-y AUVX 形式をまとめる、次のようになる。

表1 V-a/-y AUVX形式のまとめ

各形式	主動詞の意味的なタイプ	形式的な特徴	文法的な意味
V-a/-y jat-	《主体の移動を表わす動詞》 (kel-「来る」bar-「行く」)	[V-a/-y jat-]	現在における〈動作の持続〉 ☆ 現在におけるくごきの持続 ☆ 〈変化の結果の状態〉
		[V-(i)p V-a/-y jat-] (以下のように、更に下位分類される)	
		[主体の移動の様態を表わす動詞 -(i)p 移動動詞-a/-y jat-]	現在における〈動作の持続〉
		[主体の長期的な活動動作を表わす動詞-(i)p 移動動詞-a/-y jat-]	長期にわたる〈動作の持続〉
		[主体の漸進的な変化を表わす動詞-ip 移動動詞-a/-y jat-]	〈変化の進展〉
	《主体の活動動作を表わす動詞》(kör-「見る」、al-「連れる」)	körö jatarbiz ala jat	未来において〈動作の持続〉
V-a/-y tur-	《人の活動動作を表わす動詞》	[V-a/-y turgan]	〈過去の回想〉
		[V-a/-y turgan N]	未来における〈動作の持続〉
		[V-a/-y turgan bol-]	「～することになる」
		[V-a/-y tur-IMP]	〈一時的な動作の持続〉 ☆ ある一定の時間におけるの 〈動作の持続〉
V-a/-y jür-	《主体の連帯的な動作を表わす動詞》	êêrcite jür- košo ala jür-	長期にわたる〈動作の持続〉
	《人の活動動作を表わす動詞》	[jür-が常に命令形で現われる]	未来における〈動作の持続〉

また、論文の第Ⅲ部では、従来の研究で取り上げられていなかった補助動詞・主動詞が一定の形態をとることによって生じるいくつかの特徴について述べる。

- ・ 各補助動詞が文中に [V-(i)p AUXV-(i)p] の形で現れる場合
- ・ 主動詞が否定接尾辞を含む [V-NEG-CVB AUXV] の形
- ・ 補助動詞が否定接尾辞を含む [V-CVB AUXV-NEG-] の形
- ・ 主動詞が受身接尾辞を含む [V-PASS-CVB AUXV] の形
- ・ 補助動詞が主動詞として現れる場合にみられる特徴

本研究は、動詞の語彙的な意味に基づいて立てたタイプと各補助動詞のアスペクト的な意味の間の相互関係を分析・考察するという、従来の研究には見られない、いわば語彙的・文法論的な方法論をとった。多くの言語作品から手作業で抽出した大量の実例に基づき、主動詞の意味的なタイプと各補助動詞のアスペクト的な意味を細かく考えてきた。その結果、各補助動詞形式のアスペクト的な意味は、主動詞の意味的なタイプだけではなく、他の語彙的・文法的な要素などに深くかかわっていることを確認し、実際に示した。